

# 総 合 分 野



授業科目	研究セミナー	科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講 Semester	3年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	看護実践を積み重ねる過程で専門性を深めていくための基本的な方法を理解する。						
	到達目標	1. 看護研究の目的と意義を理解する。 2. 看護研究方法の基本を理解する。 3. 看護実践課題の改善・充実にに向けた研究の問いを検討する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	研究とは	[講義] オリエンテーション 研究とは何か、研究の目的、研究者・研究対象者・研究協力者等研究に関わる人々について学習する。					川野	
2	看護研究とは何か	[講義] 看護研究とは何か、看護研究の目的と意義、研究の問いの源について学習する。					川野	
3	研究の問いと研究方法	[講義] 研究の問いと、それに応じた研究方法選択の重要性を学習する。					川野	
4	研究のプロセス 研究計画の立案、研究成果のまとめ方	[講義] 研究のプロセスを学習する。また、研究計画書の内容、論文の構成と書き方、報告・公表の方法を学習する。					川野	
5	看護研究と倫理	[講義] 看護研究における倫理とは何か、研究を進めていくために不可欠な倫理的配慮について学習する。					川野	
6～8	文献検討による看護実践課題の整理と研究の問いの検討	[演習] これまでの講義・演習・実習から生じた疑問や自分自身の課題に関する文献検討を行い、研究成果を確認するとともに、看護実践課題の改善・充実にに向けた研究の問いを検討し、レポートにまとめる。					川野・成田・ 角川・田村・ 小西・上野(知)・ 谷田部・二宮・ 前田・飯島	
教科書	「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究」前田ひとみ編集、メディカ出版、2023年		参考書等	第1回目の授業において複数の文献を紹介する				
履修条件	なし		評価方法	1. 最終レポート(85%) 但し、レポートに取り組む際はルーブリック(学習態度を含む、授業時配付)を参照すること 2. 講義の事後課題(15%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	「看護基礎セミナー」や「文献講読セミナー」等で習得した、文献や情報を収集・検討する力を活かし、看護実践の改善・充実に向け創造的に探求するための能力を養う。「総合セミナー」の基盤となる科目である。受講前に文献検索方法について復習しておくこと、および教科書の該当箇所の子習・復習をしながら学習することが求められる。学生には、各自の研究課題を追求するために、考えを文章化する能力および、自分で学習する姿勢が求められる。 予習復習時間は23時間以上とする。							

授業科目	看護総合セミナー		科目責任者 塚本 友栄	単位数	4	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	120	受講 Semester	4年次 通年	
学習目的と 到達目標	目的	自己の看護実践を客観的事実として把握でき、社会の変革の方向を理解した看護学の発展を追求するための姿勢を習得する。						
	到達目標	1. 看護実践における課題や疑問の解決に向けて文献・情報を収集する。 2. 特定の看護実践課題の改善・充実にに向けて研究成果を応用する。 3. 自己の看護実施過程を客観的事実として把握する。 4. 看護実践方法の改善課題を整理し、解決するための方法を考える。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	<b>[演習]</b> 1. 演習方法 学生は8つのグループに分かれて学習する。					全教員	
2～15 (前学期)	看護実践における課題に関する文献等、情報を収集する。	2. 演習時期・演習内容 <b>【前学期】(30時間)</b> ① 学生はこれまでの学習を振り返り、看護実践における課題を明確化する。 ② 課題に関連する文献等を広く閲覧し、医療や看護を取り巻く社会情勢の変化やその方向性を踏まえながら、得られた情報を整理し、看護実践課題の位置づけを明確化する。 ③ 配置された実習場所で可能な実習計画を作成する。					全教員	
16～60 (後学期)	研究成果を用いて、課題を明確化し、改善に向けて方法を検討する。  配置された場において、可能な目標及び方法を明確にする。  展開した自己の実践内容を踏まえ、課題を整理し、改善・解決するための方法を考える。	<b>【後学期】(90時間)</b> ④ 展開した自己の実践内容を踏まえ、対象者にとって必要とされる看護実践を発展させるための方策について、文献を用いて考察を深め、研究レポートを完成させる。 ⑤ 研究レポートにまとめた内容に基づき、グループ別の発表会において発表する。					全教員	
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「文献講読セミナー」「研究セミナー」 「小児期看護実習」「周産期看護実習」 「成人期健康危機看護実習」「成人期長期療養看護実習」 「老年臨床看護実習」「老年在宅看護実習」 「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」 ・単位取得見込みが必要な科目 「総合実習」			評価方法	1. 研究レポート(100%) 2. セミナー参加態度(減点法) <b>【評価のフィードバック方法】</b> 学生に講評する			
備考	本科目は、「総合実習」と連動しながら学習を展開する。開講前に「文献講読セミナー」や「研究セミナー」の学習を振り返り本科目の学習を進めるために必要な知識を確認するとともに、自己の『看護実践における課題』について考えておくこと。看護実践における課題の明確化や分析・考察等、研究レポート作成のために必要な自己学習を行うとともに、教員等の助言・指導により自己の学習過程を振り返りながら研究レポートを作成すること。予習復習時間は48時間以上。自ら行動計画を立案して取り組む姿勢が求められる。							

授業科目	看護トピックス	科目責任者	小原 泉	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ。						
	到達目標	1. 現在の看護実践における課題を理解できる。 2. 将来の看護実践のあり方を考えることができる。 3. 卒業を前に、自己の看護職としての心構えと将来展望をもつことができる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～6	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解①	[講義・演習] 高度医療の場における看護、へき地看護、その他医療・看護の現場で注目すべきトピックスや教員の専門領域にかかわるテーマから、現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・7テーマ程度を設定し、学生はいずれか一つのテーマを選択し、学習する。					全教員	
7・8	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解②	[演習]・学内や学外で行われる学会、講演会、公開講座等に参加し、医療・看護の現場で注目すべきトピックスや現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・学生は自己の関心に応じて主体的に参加し、学習する。					全教員	
9～15	4年間の学習の振り返りと将来展望を踏まえた自己の学習課題の明確化	[講義・演習] 講義を通して様々な看護実践の対象、場や方法について理解を深め、将来の看護実践のあり方や自己の将来展望を考える。					全教員	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1) 1～6回 テーマ毎に、学習態度、記録物などで評価する(60%) 2) 7・8回 レポートで評価する(20%) 3) 9～15回 学習態度で評価する(20%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	これまでの学習を踏まえて、高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ科目である。各回に対して出された課題について、予習・復習して学習を進めること。 1～6回は、各看護学科目における授業、7・8回は、学会、講演会、公開講座などへの参加、9～15回は、前期・後期に分けて全体講義を実施する。最高学年に相応しい学習態度で臨むこと。予習復習時間12時間以上。							

授業科目	がん看護学		科目責任者 石井 容子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講 Semester	2・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	対象ががんを患う意味と、生命・生活への支障・影響を理解し、対象とその家族に必要な看護を学習する。						
	到達目標	1. がんの特徴・がん治療の特徴と看護を理解する。 2. がん治療を受ける対象に必要な看護を理解する。 3. がん体験者・がんと共に生きる対象の生活と必要な看護を理解する。 4. がんと共に生きる対象とその家族に必要な緩和ケアを理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	がんおよびがん治療の特徴と看護	[講義] がんの特徴、がんの診断や治療が対象の生命や生活に与える影響、および緩和ケアの概念について学習する。					石井	
2	がん治療を受ける対象に必要な看護	[講義] がんに対する薬物療法および放射線療法を受ける対象に必要な看護について学習する。					小原	
3	がんとともに生きる患者の生活の理解と看護	[講義] がんとともに生きる対象の生活と必要な看護について学習する。					石井	
4	がんとともに生きる患者の在宅療養への移行と継続に関する看護	[講義] がんとともに生きる対象の在宅療養への移行と継続に必要な看護について学習する。					鮎澤	
5	がんとともに生きる小児・AYA世代および高齢の対象の理解と看護	[講義] がんとともに生きる小児・AYA世代および高齢の対象の特徴と必要な看護について学習する。					今野	
6	苦痛緩和と生活の質を高める看護(1): 症状緩和	[講義] がんに伴う症状(痛み、リンパ浮腫、倦怠感など)が患者の生命・生活に与える影響と必要な緩和ケアについて学習する。					小松崎	
7	苦痛緩和と生活の質を高める看護(2): エンド・オブ・ライフ・ケア	[講義] 死の予期が対象(家族を含む)に与える影響、生き抜くことを支える看護、死別後の家族への看護について学習する。					岩永	
8	評価	レポート					石井	
教科書	指定なし			参考書等	「がんサバイバーシップーがんとともに生きる人びとへの看護ケア 第2版」 近藤まゆみ・久保五月編著、医歯薬出版、2019年 「系統看護学講座別巻 緩和ケア 第3版」 恒藤暁・田村恵子編、医学書院、2020年			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート(80%) 2. 学習態度(20%) <b>【評価のフィードバック方法】</b> 学生に講評する			
備考	臨地実習や卒後の看護実践の場で、がん患者を担当することが多いため、本科目を選択履習することでがんと共に生きる患者・家族に必要な看護について学習を深め、その後の実習や看護実践の場で学びを生かしていくことを期待する。予習や復習時間には23時間以上を必要とする。レポートテーマは後日提示する。							

授業科目	へき地の生活と看護	科目責任者	半澤 節子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	30	受講セメスター	1～4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	へき地に住む人々の生活と看護の特徴を理解する。						
	到達目標	1. へき地に住む人々の生活を理解し、人々の健康との関連を考える。 2. へき地における看護活動の現状と地域の社会資源の整備状況を捉え、看護の機能・役割を考える。 3. 1と2からへき地における看護の特徴を考える。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	[講義] オリエンテーション 学習目的、学習目標、学習方法、臨地演習施設の概要、科目の進め方、評価について。					青木・半澤	
2	へき地と地域住民の生活の理解 (1)	[演習] へき地の意味を知り、地域特性と生活との関連について情報収集およびグループワークを通して考える。					青木・半澤	
3	へき地と地域住民の生活の理解 (2)	[演習] 臨地演習施設やその地域に関する情報収集および調べ学習を通して、各自の興味関心をもとに学習目標を設定する。					半澤・川野・ 田村・八木・青木・ 市川・古島・鹿野・ 佐々木・路川・谷田部 (以下、担当教員)	
4	へき地と地域住民の生活の理解 (3)	[講義] へき地で行われている医療や看護について理解する。さまざまな看護活動と人々の生活のかかわりについて理解する。					青木・半澤	
5～14	臨地における演習 ①へき地における看護活動 ②保健医療福祉活動の見学・体験	[演習] 国内外の臨地演習施設において、学習課題の達成と自己の学習目標の達成を目指して学習する。  (おもな演習内容) 出張診療、巡回診療、訪問診療、訪問看護、居宅介護支援、デイケア、訪問リハビリテーション、レクリエーションの見学や体験等。					担当教員	
15	へき地の看護活動の実際と住民の生活との関連	[演習] ・演習での学びを報告し、へき地での看護の特徴や機能・役割について討議する。 ・討議をもとに演習の学びを整理し、今後の自己の学習課題を考える。					担当教員	
教科書	指定なし			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 授業において提出を求める記録物 (50%) 2. 課題レポート (50%) 3. 学習態度 (減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	へき地等の看護に興味を持っている学生の受講を望みます。1～4回および15回は学内、5～14回は臨地にて実施する。 【予習・復習について】学習進度に合わせて目的・目標を達成するための自己目標を立てる。事前に臨地演習施設一覧により各臨地演習施設の所在地や演習内容を把握して臨む。学習課題ごとに指示した内容について、予習復習を行うことが求められる。予習復習時間は12時間以上。							

授業科目	多職種連携論	科目責任者	塚本 友栄	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講 Semester	4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	保健医療および福祉における看護の役割を理解し、人々の健康生活を支えるために多職種と連携・協働する実践力の基礎を習得する。						
	到達目標	1. さまざまな組織・機関に所属する職種との連携・協働に必要な基礎知識および方法論を理解する。 2. 人々の健康生活にかかわる課題の解決を支える多職種の役割を理解し、連携・協働のあり方を考える。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	最近のわが国の保健医療福祉における多職種連携	[講義] わが国の保健医療福祉の動向と多職種連携との関連について理解する。 多職種連携の概念およびコミュニケーションと合意形成、効果的なカンファレンス、地域資源の活用、ネットワーク等の連携・協働に関する基礎知識を理解する。 第5回～第8回の演習の概要を理解する。					塚本	
2	退院支援と多職種連携	[講義] 退院支援の方法および多職種連携・協働の必要性と課題について、事例をとおして理解する。					塚本	
3	地域移行支援・地域定着支援と多職種連携	[講義] 障害者の地域移行支援・地域定着支援の方法および多職種連携・協働の必要性と課題について、単身者の精神障害者の事例をとおして理解する。					半澤	
4	地域包括ケアシステムと多職種連携	[講義] 地域包括ケアシステムの実践および多職種連携・協働の必要性と課題について理解する。					春山	
5～8	多職種連携演習 (医学部との合同演習)	[演習] 療養場所移行に向けた患者・家族の課題解決を目指すことを目的とした多職種および家族とのカンファレンスのロールプレイをとおして、多職種の役割を理解し、連携・協働のあり方を考える。					塚本・春山 島田・青木	
教科書	指定しない			参考書等	なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 演習後の記録物の提出 (70%) 2. 演習前の記録物の提出 (30%) 3. 学習態度 (減点法) <b>【評価のフィードバック方法】</b> 学生に講評する			
備考	病院から地域への移行期支援を中心に取り上げる。対象者にとって必要なケア提供に向けた多職種との連携・協働のあり方を深く追求する学習姿勢が求められる。保健医療福祉に関わる多職種の役割、地域包括ケアの概念、介護保険制度、障害者総合支援法等に関する復習、ロールプレイを用いた多職種連携演習開始前には演習事例の理解と必要な支援の検討、演習前後の記録物の作成等、自己学習を行うこと。予習復習時間は23時間以上。							

授業科目	総合実習	科目責任者	春山 早苗	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護の対象者及び看護実践現場の特性を踏まえて、対象者にとって必要な看護を展開するための総合的能力を養う。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の対象となる人々の権利を考え、人権を護ることができる。</li> <li>2. 理論的知識や先行研究の成果を活用し、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる。</li> <li>3. 看護実践の場の特性に応じた看護を実践できる。</li> <li>4. 看護職間、他職種、他機関との連携・協働の方法、必要な地域ケア体制について検討し、実習施設の地域における機能と役割について説明できる。</li> <li>5. 現在行われている看護実践における課題を明らかにし、看護専門職として将来展望を持ち、必要な改善について説明できる。</li> </ol>						
学習内容ならびに方法								
実習期間	10日間							
実習場所	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高度医療の場（自治医科大学附属病院、とちぎ子ども医療センター、さいたま医療センターなど）</li> <li>(2) へき地を含む地域、その他のフィールド（市町村保健福祉センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、社会復帰施設、グループホーム、事業場、診療所、助産所など）</li> </ol>							
担当教員	看護系全教員							
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 原則、所定の期間に臨地で実習する。実習日程は各グループにおいて調整可能であるが、必ず前学期で実習を終える。</li> <li>(2) 学生自らが実習目標及び実習方法を計画立案し、臨地の指導者等と調整しながら看護を展開し、その評価を行う。</li> <li>(3) 対象者にとって必要な支援を提供するために、看護職として必要な他職種との協働（調整や連携）、チームアプローチについて検討する。</li> </ol>							
実習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月初旬の全体オリエンテーションにおいて、要項を配付し概要を示す。「看護実践における課題に関するアンケート」を指定の日時までに提出する。</li> <li>・ 各学生の看護実践における課題に基づきグループ分けを行い、グループ毎に学習する。</li> <li>・ これまでの学習を踏まえながら、自己の看護実践における課題を見出す。</li> <li>・ 「看護総合セミナー」において検討する自己の看護実践における課題を深めながら、実習施設の特性、受け持つ対象者の特性などを踏まえて、実施可能な実習計画を立案して看護を展開する。</li> <li>・ 実習最終日には、グループ毎に到達目標に沿って討議し、実習全体の学びを統合して実習のまとめを行う。</li> <li>・ 各実習場所における実習方法の詳細については、グループ別のオリエンテーション時に説明をする。</li> </ul>							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位を取得していることが必要な科目：「小児期看護実習」「周産期看護実習」「成人期健康危機看護実習」「成人期長期療養看護実習」「老年臨床看護実習」「老年在宅看護実習」「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」</li> </ul>			評価方法	<p>実習内容、実習態度、実習記録物、各種カンファレンスの参加状況から総合的に評価する。</p> <p>【評価のフィードバック方法】 学生に講評する</p>			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習として、「文献講読セミナー」及び「研究セミナー」における学習内容をよく復習しながら、自己の看護実践における課題に関連する資料や文献等について、情報収集して臨む。</li> <li>・ 自己の看護実践における課題を明確にしつつ、自ら行動計画を立案し、主体的に実習を行う。</li> <li>・ 「看護総合セミナー」と連動しながら学習を展開し、実習における自己の実践をよく振り返り、「看護総合セミナー」の学習を深められるようにする。予習復習時間は4時間以上。</li> <li>・ 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。</li> </ul>							